

2021年度第2回東京競馬特別レース名解説

<第1日>

○ 新緑賞

新緑（しんりょく）は、春から初夏のみずみずしく艶やかな若葉の緑のこと。東京競馬場周辺のケヤキ並木も4月下旬になると葉を付け、鮮やかな緑色に彩られる。

○ 晩春ステークス

晩春（ばんしゅん）は、春の終りのこと。暮春。陰暦の3月を指す。一般的に、春のたけなわを過ぎた頃をいう。

○ オアシスステークス（L）

オアシス（Oasis）は、砂漠中に泉が湧き出て、その周囲に草木が生い茂っている緑地。ラクダで砂漠を横断する隊商の休息所とされる。また、「人生の慰安となるもの」「安らぎの場所」という意味もある。

<第2日>

○ 石和特別

石和（いさわ）は、山梨県東八代郡にあった旧町名。平成16年に周辺6町村と合併して笛吹市となった。桃、ブドウの栽培が盛ん。昭和36年にブドウ畑から温泉が湧出し、現在は石和温泉郷として発展している。

なお、同地にはJRAの場外勝馬投票券発売所であるウインズ石和がある。

○ 鎌倉ステークス

鎌倉（かまくら）は、神奈川県三浦半島西部の市。相模湾に面しており、背後の三方を山に囲まれるという地の利を生かし、源頼朝が幕府を開いた。以後約150年の間、武家政治の中心地として発展した。源氏ゆかりの史跡が今も数多く残り、市街の中心には鶴岡八幡宮が、周囲の山地には建長寺・円覚寺・寿福寺・浄智寺・浄妙寺の鎌倉五山がある。

○ サンケイスポーツ賞フローラステークス（GⅡ）（オークストライアル）

本競走は、昭和41年に優駿牝馬（オークス）のトライアル競走として創設された重賞競走。当初は距離2400mのオークスに対し、600m短い1800mで実施されていたが、62年にオークストライアルとしての性格をより明確にするため、2000mに延伸された。なお、第2着までの馬には優駿牝馬（オークス）への優先出走権が与えられる。

フローラ（Flora）は、ローマ神話に登場する、花と春と豊穰を司る女神の名。また、ある特定の地域もしくは時代に生育する各種植物の全種類の意。

サンケイスポーツは、産業経済新聞社から発行されているスポーツ紙。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第3日>

○ 秩父特別

秩父（ちちぶ）は、埼玉県西部に位置する市および郡の総称。古くから養蚕の中心地として発展し、秩父銘仙や秩父つむぎが有名。また、秩父盆地南部の武甲山から産出される石灰岩を利用したセメント工業が盛んである。

○ 春光ステークス

春光（しゅんこう）は、春の日の光、または春の景色。一般的に陽光の輝かしさの意をこめて用いる。

○ テレビ東京杯青葉賞（GⅡ）（ダービートライアル）

本競走は、3歳馬5大クラシック競走を頂点とする競走体系を明確にし、クラシック戦線の更なる盛り上げを図るため、平成6年に重賞へ格上げされた競走。東京優駿（日本ダービー）と同じ距離で実施される。なお、第2着までの馬には東京優駿（日本ダービー）への優先出走権が与えられる。

青葉（あおば）は、青々と生い茂った木の葉のこと。

テレビ東京は、東京都港区に本社を置く放送局。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第4日>

○ 陣馬特別

陣馬（じんば）山は、東京都八王子市と神奈川県相模原市との境にある標高855mの山。ハイキングスポットとして人気が高く、丹沢・富士山・奥多摩・筑波山・関東平野などを見渡すことができる。山頂にはシンボルとして白馬のモニュメントが設置されている。

○ 府中ステークス

府中（ふちゅう）は、東京都中央部の市。市の南端には多摩川が流れ、北部は立川段丘が広がっている。大化の改新により武蔵国府が置かれて以来、行政の中心地となった。また、江戸時代には甲州街道の宿場町、大國魂神社の門前町としても栄えた。現在は住宅都市として発展している。

なお、同市は東京競馬場の所在地でもある。

○ スイートピーステークス（L）（オークストライアル）

スイートピー（Sweet Pea）は、マメ科の蔓性の一年草。イタリアのシチリア島原産で、葉の脇に大形の紅・桃・紫・白色などの蝶形花を付ける。花言葉は「出発」「小さな喜び」。

なお、第1着馬には優駿牝馬（オークス）への優先出走権が与えられる。

<第5日>

○ 立夏ステークス

立夏（りっか）は、二十四節気のひとつ。春分と夏至の中間にあたり、旧暦ではこの日から夏が始まる。

○ メトロポリタンステークス（L）

メトロポリタン（Metropolitan）は、「首都の」「大都市の住民」を意味する英語。

○ プリンシパルステークス（L）（ダービートライアル）

本競走は、平成8年に創設された、東京優駿（日本ダービー）のトライアル競走。ダービートライアルとして実施されていた『NHK杯』が『NHKマイルカップ』に変更されたことに伴い創設された。当初は距離2200mの定量で実施されていたが、15年より2000mの馬齢重量に変更となった。なお、第1着馬には東京優駿（日本ダービー）への優先出走権が与えられる。

プリンシパル（Principal）は、「最も重要な人」「主役」を意味する英語。バレエ団において主役クラスのダンサーを指す言葉としても知られている。

<第6日>

○ 湘南ステークス

湘南（しょうなん）は、神奈川県相模湾一帯を指す名称。一般的には葉山・逗子・鎌倉などの三浦半島・茅ヶ崎・大磯などを含む地域のことを言う。温暖な気候と長い海岸線に恵まれ、夏には、海水浴やマリンスポーツ、ドライブなどを楽しむ人々で賑う。

○ ブリリアントステークス（L）

ブリリアント（Brilliant）は、「輝かしい」「鮮やかな」を意味する英語。ダイヤモンドの研磨方式の一種にブリリアントカットがあり、その研磨方式によって作られる 58 面体のダイヤモンドは理想のカットと言われている。

○ NHKマイルカップ（G I）

本競走は、平成 8 年に創設された重賞競走。平成 7 年までダービートライアルとして実施されていた『NHK 杯』を前身とする。世界的に競馬のスピード化が進み、短い距離の成績もより重要視されるようになってきたことや、当時クラシック競走に出走できなかった外国産馬の目標となる競走を作ることなどを目的として創設された。それに伴い、同年には 3 歳馬競走における短距離の競走体系も整備された。

NHK は東京都渋谷区に本部を置く公共放送局。日本放送協会の略称。本競走は、同協会より寄贈賞を受けて実施されている。

○ 立川特別

立川（たちかわ）は、東京都中央部の市。南部に多摩川、北部に玉川上水が流れ、市の中心部には広大な国営昭和記念公園や立川飛行場がある。

なお、同市には JRA の場外勝馬投票券発売所であるウインズ立川がある。

<第 7 日>

○ 日吉特別

日吉（ひよし）は、東京都府中市の町で、東京競馬場の所在地。地名は、現在の東京競馬場所在地にあった日吉神社（現在は馬頭観音付近に移築）に由来する。町域全てが東京競馬場とその関連施設となっている。

○ 緑風ステークス

緑風（りょくふう）は、初夏の青葉を吹く心地よい風のこと。

○ 京王杯スプリングカップ（G II）

本競走は、昭和 31 年に創設された重賞競走。当初は『スプリング・ハンデキャップ』の名称で、4 歳以上馬による 1600m の重賞競走として、2 月下旬から 3 月上旬にかけて実施されていた。38 年には距離が 1800m へ延伸されたが、56 年に現在の 1400m の別定重量戦に変更された。さらに、平成 8 年に安田記念の実施時期が 6 月に繰り下げられたことに伴い、5 月に移設となった。なお、第 1 着馬には同年の安田記念への優先出走権が与えられる。

京王電鉄は、東京都多摩市に本社を置く鉄道会社。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第8日>

○ テレ玉杯

テレ玉は、テレビ埼玉の愛称。テレビ埼玉は、埼玉県さいたま市に本社を置く昭和54年4月開局の放送局。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

○ 青竜ステーキス

青竜（せいりゅう）は、中国に伝わる神獣。天の四方の方角を司る四神のひとつであり、東を守護する。めでたいことの印としても知られている。

○ ヴィクトリアマイル（G I）

本競走は、平成18年に創設されたG I競走。従来、生産の原点である牝馬は、早期に生産界へ還元することが望ましいと考えられていたため、古馬牝馬の目標となる競走の編成は長らく見送られていた。しかし、8年以降、エリザベス女王杯の古馬牝馬への開放や古馬牝馬重賞競走の増設およびローテーションの整備によって、競走馬として長く活躍する牝馬が多くなった。また、そうした牝馬からも優良な産駒が誕生するようになったことから、生産界における考え方にも変化が生じてきた。そこで、春に古馬牝馬の目標となる競走として、本競走が創設された。

ヴィクトリア（Victoria）は、ローマ神話に登場する勝利の女神のこと。

○ BSイレブン賞

BSイレブンは、日本BS放送株式会社が放送するBSデジタルハイビジョンのチャンネル名。同社は、東京都千代田区に本社を置く放送局。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第9日>

○ カーネーションカップ

カーネーション（Carnation）は、ナデシコ科の多年草。南ヨーロッパおよび西アジアが原産。花の色はピンク・赤・白など多彩。母の日に日頃の感謝の思いを込めてカーネーションを贈るという習慣は、世界中で定着している。花言葉は「感動」「純粋な愛情」。

○ 高尾特別

高尾（たかお）は、東京都八王子市の地名。高尾山の東麓にあり、多摩御陵などがある。高尾山は、中生代の粘板岩などからなる、関東山地の東縁に位置する山。標高599m。多くの動植物を見ることができ、明治の森高尾国定公園に指定されている。

○ メイステークス

メイ (May) は、5月を意味する英語。真っ盛り、青春の意味もある。

<第10日>

○ 是政特別

是政 (これまさ) は、東京都府中市南部の地名。東京競馬場に隣接する多摩川北岸にある低地で、砂利採取場跡を利用した多摩川競艇場が有名。名は、天正18年(1590)に北条氏照の家臣であった井田是政が、府中の地に移り住み村を開いたことに由来する。東京競馬場の3~4コーナーの馬場内にある通称大櫨の木の下には同氏の墓があり、都指定の文化財となっている。

○ 調布特別

調布 (ちょうふ) は、東京都中央部の市。東西を京王線や甲州街道、中央自動車道が通り、都心へのアクセスが良好なためベッドタウンとして発展している。また、深大寺をはじめとする多くの寺社や史跡が残されている。

○ フリーウェイステークス

フリーウェイ (Freeway) は、高速道路を意味する英語。東京競馬場の向正面後方には、中央自動車道が走っている。

なお、本競走の本馬場入場曲に使用される、歌手荒井 (松任谷) 由実の曲「中央フリーウェイ」の歌詞「右に見える競馬場 左はビール工場」の「競馬場」とは東京競馬場のことであり、「ビール工場」とは競馬場向正面に位置するサントリービール工場を指している。

○ 優駿牝馬 (GI) (オークス)

本競走は、イギリスのオークスに範をとり、昭和13年に『阪神優駿牝馬』の名称で創設された重賞競走。当時は、我が国と競馬先進国で、3歳牝馬の成長度に半年程度の差があると考えられていたため、秋に実施されていた。21年に開催場を東京競馬場に変更したのを機に、現在の『優駿牝馬』に改称。28年には実施時期を諸外国と同様の春に変更し、現在に至る。

オーク (Oak) は、櫨を意味する英語。英ダービーの創設者である第12代ダービー卿エドワード・スミス・スタンレーは、櫨の森が茂るオークスと呼ばれる土地を所有していた。1779年、彼はエリザベス・ハミルトンと結婚した際に、その記念として競馬を開催することを思い立ち、その中に夫人の希望を入れ、3歳牝馬のレースを行い、これをオークスと名付けたと言われている。

○ 丹沢ステークス

丹沢（たんざわ）は、神奈川県北西部にある丹沢山（標高 1,567m）を中心とする丹沢山地のこと。同山地は、東西約 40 km、南北約 20 km で神奈川県・静岡県・山梨の 3 県にまたがっており、関東山地の南部地域にあたる。北は桂川断層谷で秩父山地に接し、一帯には断層が多い。

<第 11 日>

○ 富嶽賞

富嶽（ふがく）は、日本最高峰である富士山の異名。江戸時代の浮世絵師、葛飾北斎は『富嶽三十六景』の中で、各地から望む富士山の景観を描いている。中でも赤富士を描いた「凱風快晴」や「神奈川沖浪裏」、「山下白雨」などが有名。

○ 葉山特別

葉山（はやま）は、神奈川県三浦半島西岸にある町。南北 4 km に及ぶ海浜は、岩礁や富士山、箱根などの遠景と相まって優れた眺望を誇っている。保養地として有名で、明治 27 年に葉山御用邸が建てられた。また、日本におけるヨットの発祥地でもあり、付近にはマリンスポーツの施設が多い。

○ 欒ステークス

欒（けやき）は、ニレ科の落葉大高木。街路樹や庭木として栽植されている。葉は鋸歯があり狭卵形で先が尖っている。春には淡黄緑色の小花を咲かせ、ゆがんだ球形の小果を結ぶ。材は堅く木目が美しいので、建材・家具材などに用いられる。また、東京競馬場のある府中市の「市の木」でもあり、大國魂神社のケヤキ並木は、国の天然記念物に指定されている。

<第 12 日>

○ 青嵐賞

青嵐（あおあらし）は、青葉の頃に吹き渡るやや強い風のこと。また、初夏に吹く南風の雅語。

○ 薫風ステークス

薫風（くんぷう）は、初夏に南から吹く、若葉の香りを漂わせた爽やかな風のこと。

○ むらさき賞

むらさきは、ムラサキ科の多年草。全体に粗毛があり、根は太く、茎の高さは 50 cm ほどになる。葉は披針形で、初夏から夏にかけて白い花を咲かせる。乾くと紫色になる根は古くから紫色の染料として使用される他、漢方として解熱・解毒の薬、皮膚病の薬などに用いられる。

○ 東京優駿（G I）（日本ダービー）

本競走は、昭和 5 年に東京競馬倶楽部が、イギリスの『ダービー』に相当する 3 歳馬の大レースを設け、競走体系の確立と競走馬の資質向上を図るという目標を掲げて発表した「東京優駿大競走編成趣意書」に基づき、7 年に『東京優駿大競走』として創設された競走。『皐月賞』、『菊花賞』と共に 3 歳クラシック 3 冠競走を構成している。

1780 年、第 12 代ダービー卿エドワード・スミス・スタンレーらにより、イギリスのエプソム競馬場で彼の名を称した 3 歳牡牝混合競走の『ダービー』が創設された。当初はそれほど注目を浴びる競走ではなかったが、優勝馬が種牡馬として成功したこと、産業革命の進展によって生まれた富裕階級の競馬愛好者からの注目を集めたこと、さらにエプソム競馬場が立地条件の良いところに位置していたことなどの理由から、1800 年代中頃になると大きな人気を博するようになり、現在では 3 歳馬の頂点を決める競走としての揺るぎない地位を確立している。

長い歴史を持つ英ダービーに範をとって、現在、世界各国でもダービーが行われている。サラブレッド生産を伴う競馬先進国には、必ずダービーにあたる競走があり、その中でもヨーロッパにおける愛ダービー、仏ダービー、北米のケンタッキーダービーなどが国際的にも重要な競走とされている。今日では“競馬の最大の祭典”として、競馬ファン以外の人々にも広くその名を知られている。

○ 農林水産省賞典目黒記念（G II）

本競走は、昭和 7 年に創設された重賞競走。日本におけるハンデキャップ競走としては最も古い歴史を持つ。大正 14 年の秋に目黒競馬場で実施された距離 3400m の『各内国産抽籤豪州産馬混合競走』が前身で、後に『各内国産古馬競走』と改称された。“2 哩 1 分”の愛称で親しまれていたが、同競馬場の府中への移転が決まった際、「目黒」の名を永く後世に伝えるため、競走名を『目黒記念』に改称した。また、昭和 25 年秋からは 2500m に短縮された。従来、春秋 2 回行われていたが、59 年より年 1 回の実施となり現在に至る。